

審 議 結 果

会 議 名	第1回盛人大学運営委員会
開 催 日 時	平成29年9月21日(木) 10時00分から11時00分
開 催 場 所	川口市立かわぐち市民パートナーステーション会議室1
出 席 者	沢田委員長、阿部副委員長 加藤委員、仲川委員、小寺委員、前田委員、廣瀬委員 高山課長、買田課長補佐、平石主査、作田主任、坂井主事補
議 題	1 開会 2 議事 (1) 協議事項 ア 平成30年度のコース運営について (2) 報告事項 ア 学旨について 3 その他 4 閉会
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
会 議 資 料	資料No.1 平成29年度盛人大学事業の状況 資料No.2 平成28年度盛人大学事業結果 資料No.3 応募者・受講者数推移 資料No.4 盛人大学を知るに至った契機 資料No.5 盛人大学受講生増加に向けた周知方法の検討について

	資料No.6 盛人大学学旨の改正について（答申）の写し
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

審 議 経 過

1 開会（10時00分）

- ・ 事務局から出席委員数が委員定数の過半数に達しているため、盛人大学運営委員会設置要綱第6条第2項の規定により本委員会が成立している旨を報告した。
- ・ 事務局から配布資料について説明した。
- ・ 委員長が会議録署名人を選任した。

2 議事

(1) 協議事項

ア 平成30年度のコース運営について

○委員長

協議事項のア 平成30年度のコース運営について事務局の説明を求める。

○事務局

今年度初めての運営委員会であるため、平成30年度のコース運営についての説明の前に、平成28年度の盛人大学事業の結果及び平成29年度の状況について説明させていただく。

平成28年度の盛人大学事業結果について、3ページ資料2をご覧ください。定員数330名に対し、295名が受講した。全9コースに対して定員割れをしたコースは、カウンセリング入門、健康生きがいつくり、地域デザイン入門、ボランティア入門、社会起業・ビジネスの5コースとなっている。卒業要件は8割以上の出席及び卒業レポートの提出の2つを満たすこととしており、251名が卒業した。盛人大学は、市民大学と異なり知的欲求や学習意欲を満たすだけでなく、自主的に地域で社会貢献活動をする人を育てる場であることから、今年度も前年度の卒業生に対し、社会貢献活動の実施状況等について、12月初旬にアンケート調査を実施する予定である。

次に、平成29年度の受講者状況について、1ページ資料1をご覧ください。募集定員320名に対し、受講生は274名となっている。定員割れをしたコースは昨年度同様に5コースとなっているが、カウンセリング入門コースが定員に達し、農業体験コースが定員割れとなった。残念ながら、地域デザイン入門コースは、定員の半数以下となっている。

2ページは、昨年度から実施している公開講座の応募状況をまとめたものである。公開講座は前期と後期に分けて実施している。なお、資料作成の都合上、8月25日現在のデータとなっている。公開講座は、川口市内在住または在勤の48歳以上の方を対象に、盛人大学を市民の方に広く知ってもらうこと及び来年度以降に盛人大学に応募する際の参考にしていただくことを目的に体験講座として開講している。

4ページ資料3は、平成25年度から平成29年度までの各コースの定員数、応募者数、受講者数の一覧表である。表の見方について、平成26年度社会教養コースの応募者を例に説明する。平成26年度に応募総数は77となっている。隣の上段の50は新規の方からの応募数、下段の27は過去に盛人大学を受講したことがある方からの応募数である。応募総数77の下の括弧35.1%は、過去に受講経験がある方の割合を表している。そして、応募者と受講者の29年度の右側には、矢印で大まかな増減傾向を示している。受講者の欄の見方についても同様である。

応募方法は、一人につき葉書1通のみで、最大第二希望まで記入することができるため、応募者数は延べ人数となっている。例えば、29年度の地域デザイン入門コースは、定員20名に対し、11名からの応募をいただいておりますが、定員割れとなっているが、実際の受講生は8名となっている。残りの3名は第二希望として地域デザイン入門コースに応募し、第一希望として応募した他コースを受講しているか、当選後に辞退されたということになる。

下の合計をご覧くださいと分かるように、全体的に応募者数、受講者数は減少傾向にある。受講経験がある方は、盛人大学事業の存在や募集の開始時期などを把握されていると考えられることから、応募者数、受講者数を増やすためには、新規の方の応募を増やすことが特に

重要である。また、盛人大学事業は社会貢献する人材の育成を目的に実施していることから、新しく社会貢献活動をする方を増やすという意味でも、新規の方への周知及び勧誘を行うことが重要であると考えている。

5ページの資料4をご覧ください。この資料は、平成28年度の受講生に「盛人大学を知ったきっかけ」についてアンケート調査をした結果である。この結果から、回答者の8割以上が、広報紙や募集案内などの紙媒体で盛人大学を知ったことが分かる。そして、知人からが15.2%と続き、ホームページは僅か2%に留まっている。

現在の盛人大学の周知方法については、6ページの資料5のとおり広報紙への掲載や募集案内の配布の他、WEBサイトやFMかわぐち放送を利用した宣伝などを行っている。今後は協働推進課主催のイベントにおける宣伝活動や、公民館報への掲載を実施することで、盛人大学の知名度をより一層広めていきたいと考えている。

平成30年度コース運営について、先ほどより地域デザイン入門コースの名前を挙げてさせていただいているが、平成27年度の盛人大学運営委員会において、定員の半数を下回ったコースについては、翌年度の継続について盛人大学運営委員会で検討をすると決定した。今年度の地域デザイン入門コースは、定員の半数を下回ってしまっている。資料4にある下表は、同コースの過去5年間の開講時間や受講料についてまとめたものである。なお、受講料は欄外の記載のとおり、全9コース分の講師料需要の8割をカバーできるように大まかに3段階で設定しているため、必ずしも各コースの受講生数と比例するわけではない。

募集案内6ページの概要を見ると、「「地域デザイン」とは地域の様々な課題を発見し自分たち自身で解決をみいだしていくことです。」とある。「地域デザイン」の用語を調べると、人口減少や高齢化社会が予想され、人々がハードよりソフトを求める時代に入ったこと、1995年阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災や2014年に掲げられた地方創生政策などをきっかけに、より加速してこの言葉が使用されているようである。地域デザインに関する新設学科を設ける大学も増えていることから、今後更なる発展が予想されている。このように、新しい取り組みであることから、50歳以上の方にも分かりやすい説明にするこ

とを提案させていただく。

運営委員の皆様には、こちらの表や募集案内の内容をご覧いただき、今後の地域デザイン入門コースをはじめ、全てのコースの受講生増加のためにご意見を賜りたい。

○委員長

今の説明に対して、質問や意見はあるか。

○委員

定員割れをしているコースがあるという説明があったが、そのコースに応募しなかった理由が分かる資料はあるか。内容が難しそうだ、興味が湧かなかったなどいろいろな理由があると思う。

○事務局

受講生にアンケート調査をしているが、選ばなかった理由についてはお聞きしていなかった。今後のアンケートに導入するかどうか検討させていただく。

○委員

募集周知方法についてだが、紙媒体が重要であることから、9月の川口健康フェスティバルや10月の川口グリーンフェスティバルなどのイベントで募集案内を配布することは可能か。

○事務局

募集期間が終了しているが、今後はイベントの場を利用し、紙媒体による周知に力を入れていきたい。

○委員長

事務局から他にご審議いただきたいことはあるか。

○事務局

受講生の方は募集案内の概要等をお読みになられて応募されているが、今後は初めて手に取った方がより理解しやすいような内容を目指していきたいと考えている。委員の皆様にも概要等をご一読いただき、募集案内の内容についてもご意見をいただきたい。

○委員

各コースのスタッフが熱意を持って作られたものであると思う。事務局に勝手に作られたということにならないよう、スタッフと上手く連携をしてほしい。

「地域デザイン」という言葉は分かりにくいところがあると思う。この言葉にあまり拘らなくてもよいのではないかと思う。また、国際コースや郷土川口再発見コースの学習内容も地域に関係するものである。地域デザイン入門コースとこれらのコースが絡むような内容にできれば有効的だと思うし、このコースが無くなったとしても、他のコースに地域デザイン入門の学習内容を取り込むことができると思う。

○事務局

スタッフの方々の意思を尊重すべきことは重々承知している。近年、「デザイン」という言葉はいろいろな分野で使われているようであるが、50歳以上の方には聞き慣れない言葉であると思うので、上手くカバーしていきたい。また、ご意見にあったように、色々なコースの内容と絡んでくる発展性のあるコースであることを示せば、興味が沸く方も増えるのではないかと考えている。スタッフの方々と検討していきたい。

○委員

「地域デザイン」という言葉は、アメリカでは20、30年前から使われている言葉で、日本でも約20年前から使われている言葉である。元々、地域デザインとは、どのようにしたら生活が便利になるか、どのようにしたらコミュニティが発展するか、どこに商業施設があったらよいか、どのようにしたら多くの人がまちに来てくれるようになるかなど、色々な検討を行い、まちづくりそのものをデザインして発展させていこうというものである。現在の内容を見てみると、大学の授業などで学ぶような学問的なものが多く、初めて来る方にはなかなか取っ付きにくいものであると思う。また、成果がなかなか見えにくい、感じにくいことも大きな要因のひとつであると思う。もっと身近な存在である地元の商店会や町会の方々と地域のことについて話し合うなど実践的な内容も取り入れることなども有効であると思う。初年度の大学祭で、地域デザイン入門コースは企画として商店会の方々をお招きし、座

談会のようなものを開催したことがあるが、地元の方々とこのようにコミュニケーションを取ったケースはこれだけである。地元の並木の商店会でも盛人大学を知らない方々がいる。盛人大学側からアプローチし、地域の方々と活動をするようになれば、受講生はもちろん、受講生の募集の面でも良い効果が出てくるのではないかと思う。

○委員

盛人大学は、社会貢献活動をする人材の育成を目的に実施しているが、地域デザイン入門コースの学習内容はその基本となるものである。

以前の委員会で、受講生数が定員の半数以下になった場合、継続するかどうかについて審議すると決定した。社会貢献活動の基本となるものであることから、受講生が少なくても講師の方が実施することを了承していただけるなら、継続でよいのではないだろうか。

○委員

他のコースは、個人で学び、個人で完結するようなソフトなものが多い。みんなで川口を作っていくことを考える地域デザイン入門コースを無くした場合、地元川口に根ざしたコースが少なくなる。これは盛人大学の意義にも関わることであると思う。コース名や内容の変更の他に、外部からも見えやすいやり方で地域の方々との活動を実施することで成果を感じることができると思う。

○委員

応募する方々の視点に立って募集案内を見てみると、地域デザイン入門コースの内容はハードルが高く、応募しにくいように感じる。特に最後の3つの講座は全てグループワークとなっており、尻込みするのではないかと思う。カリキュラムを作成するスタッフの方々との相談になるが、もう少し初心者の方を意識したレベルにして、最後に地元の町会とグループワークをするなど、きっかけづくりを目的とした内容にしたほうが、募集案内を手にとられた方は応募しやすいと思う。このコースは継続して実施すべきだと考えている。

○委員

グループワークという言葉はすごく大変そうな印象を受ける方もいると思う。講座内容だ

けでなく、文言も工夫することで印象は大きく変わると思う。

○委員長

これまでのご意見をまとめると、地域デザイン入門コースの講座や募集案内の内容等について検討しながら、継続して実施していくということでよいか。

○委員

よい。

○委員

市の広報誌を見ていると、さまざまな講習を実施していることが分かる。ボランティア入門コースの講座で救命講習などの手法を学べば、卒業後に地域に戻ったときに、実際に活かすことができるし、知人や友人のお手本になることもできると思う。

○事務局

そのようなご提案があったことをお伝えさせていただく。

○委員

公開講座の受講生数は延べ人数だと思うが、同じ方が複数受講されているケースは多いか。

○事務局

多くの方に盛人大学の講座を体験していただくために、公開講座は前期と後期に分け、原則それぞれ1講座までの申し込みとしている。ただし、直前に定員に空きがあれば、2回目の受講を可としている。そのため、2回受講された方が若干名いる。

(2) 報告事項

ア 学旨について

○委員長

報告事項のア 学旨について事務局の説明を求める。

○事務局

7 ページ資料 6 をご覧いただきたい。盛人大学が設立されて以来、大学のあり方を象徴する学旨は「人、地域、社会がともに成長する」となっている。盛人大学は平成 18 年度の開校から 10 年以上が経過し、自治基本条例や協働推進条例の制定はじめ、新しい将来都市像を踏まえた第 5 次総合計画も策定など、盛人大学を取り巻く環境も大きく変化した。また、平成 28 年度川口市行政評価外部評価結果においては、協働推進を意識した趣旨・目的の明確化を求められた。

そこで、平成 28 年 10 月 18 日に市長の諮問機関である川口市協働推進委員会において、市民大学等の他部局の事業との住み分けを明確にし、卒業後は自主的な社会貢献活動を促す事業であることを受講者に意識させることが必要であることを鑑みていただいたうえで、学旨の改正についてご審議いただいた。

その結果、当初の経緯を尊重すること、卒業後は社会貢献活動を行っていただきたいということが明確に伝わること、川口市協働推進条例の制定や第 5 次総合計画の将来都市像を踏まえたものであることが望ましいということから、「人、しごと、地域社会がともに輝く ～盛人による社会貢献のために～」が盛人大学の新たな学旨としてふさわしいと結論付け、去る 6 月 28 日に協働推進委員会委員長より奥ノ木市長へ答申が行われたことを報告させていただく。

○委員長

今の説明について意見や質問はあるか。

○委員

学旨の改正について理解したが、募集案内の学旨の下には説明文がある。この説明文も変更となるのか。

○事務局

今後検討していく予定である。募集案内作成にあたって多少の変更があると考えている。

○委員

説明文は学旨以上に大切であると考えており、説明文の内容によって学旨への理解が大きく変わると思う。どのような過程を経て、決定されるのか教えていただきたい。

○委員

現在の説明文は、当時のかわぐち市民パートナーステーションとNPO法人輝け盛人と
の協働事業で実施することになった際に、時間のない中で慌しく作られたものである。完
成後、説明文が分かりにくいという意見もあった。川口市には市民大学という一見類似し
た事業があるが、NPO法人輝け盛人のみで盛人大学を実施していた時は、市民大学のこ
とを特に意識はしていなかった。現在は市の事業でもあるので、市民大学との差別化や違
いを説明できるようにしてほしいと思う。

○事務局

学旨の説明文について、次回の盛人大学運営委員会で諮らせていただきたい。まず、事
務局で案を作成し、実際にコースを運営されている実行委員の皆様と調整させていただく。

○委員長

実行委員の皆様とともに作成した案を基に、次回の盛人大学運営委員会で審議すること
とする。

○委員

募集案内の配布時期も考慮しなければいけないが、いつ印刷を依頼するのか。

○事務局

昨年度同様に2月の初旬ごろに盛人大学運営委員会を行い、受講料の検討をしていただ
きたいと考えている。募集案内の印刷はそれ以降になる。

○委員長

スムーズに議論を進めるために、事前に説明文の案を各委員に送付してほしい。

○事務局

承知した。募集案内の配布時期との兼ね合いもあるため、次回の委員会で決定すること

ということをお願いしたい。

○委員

遅くとも1月中旬に送付していただきたい。

○事務局

承知した。

○委員

盛人大学と似ている事業が少ないが、滋賀県で100歳大学というものが実施されている。100歳近い年齢を生きるにあたって、若い方を学び、そしてみんなで元気になって地域を支えましょうという目的で実施されているようだ。面白いと思ったのは、健康体操のようなものを行っていることである。川口体操のようなものがあれば、それを各コースで行えば、受講生同士の連帯感や統一感が生まれてくることもあると思うし、それがロコミとなって広がるのではないかと思う。何か参考になればと思い、紹介させていただいた。

○委員

過去にNHKのテレビ体操の体操役を務めた知人がいる。現在はモダンバレエ教室を2つ開き、子供たちに創作ダンスなどを教えている。盛人大学体操のようなものを作ってもらい、それを盛人大学から広げるというのも面白いと思う。

○委員

各コースのスタッフが一生懸命運営されていると思うが、各コース独立しており、横のつながりが薄いと感じている。盛人大学全体で一体感を感じるには、体操やダンスなどは有効であると思う。

○委員長

川口市には「かわけんダンス」というものがあるが、動きが激しいものであるため、盛人大学で行う場合は、50歳以上の方への負担が少ないもの考えたほうが良いと思う。

○委員

有名なアイドルグループの曲を使ってみんなで踊ることが一時期に流行ったように、身

体をみんなで動かすのは、気持ちがよく、連帯感を生み出すなど良い面がたくさんある。
盛人大学にもそのようなものがあつたら良いのではないかと思った。

○委員長

その他に質問や意見はあるか。ない場合は、これで議長の任を降り、進行を事務局に戻す。

4 閉会（11時00分）

○事務局

これをもって、第1回盛人大学運営委員会を終了する。

会議の内容については、以上のとおりです。

平成29年10月21日

盛人大学運営委員会委員長

(沢田委員長署名)

.....

盛人大学運営委員会委員

(仲川委員署名)

.....